第20弾

夏休みのオモイデを語るつもりだった対談

M「夏休みですね！今回はみなさんの夏休みの思い出を語っていこうかと」
A&F「思い出・・・？（以下沈黙）」
M「なぜそこで黙る？なんかあるでしょう、キャンプとか花火とかひと夏の恋とか座敷わらしと出会った夏とか！」
F「まてまてまて後半なんかホラー要素が入りましたよ？」
O「私あるわよ。ホラー体験の夏」
M「おや、通りすがりの児童担当Oさん」
O「高野山の宿坊に泊まった時ね、隣の部屋から家族連れの賑やかな声が聞こえてたから、翌朝宿坊の人に『隣は家族連れだったんですね～』って言ったら『いえ、隣の部屋は誰もお泊りではありません』ってさ」
A&F「(・・・ホンモノ、だ・・・っ)」
M「さ、ステキに身の毛もよだったところで、楽しい思い出を語りましょうか。中高の夏休みといえば部活！みんなの部活は？」
A「(そらした！）私は陸上部です」
F「(わざとらしくそらした！）あっ、私も陸上部です！」
M「まあまあっ二人とも運動部なのねー。でも陸上って競技がいろいろあるじゃない？短距離とか幅跳びとか砲丸投げとか。どれやってたの？」
F「いろいろやりますよ。四種競技とかあるんで」
M「四種競技？それは近代五種とかと似ているのかしら？」
A「近代五種？？？それは聞いたことないです…」
M「知らないの？オリンピックでやってるじゃない。5種類の競技で競うの」
F「5種類・・・。どの種目ですか？」
M「ええっとね。**まず馬術！**　・・・おや？」
A「それ、陸上競技じゃないですね」
F「今、自分で言って“しまった”と思ったでしょ」
M「うるさいな！馬が出る競技が好きなんだよ！」
A「・・・意味わからないですぅ・・・」
M「なによー！大体陸上なんて走るだけの部活で何が楽しいのよー」
F「ああっ今、全国の陸上部員を敵に回す暴言を!!」
A「そういえばMさんの部活は何だったんですか？」
M「私？吹奏楽部。でも結構黒歴史だから聞かないで。それより夏休みの思い出は？さあ語るのだ！」
A「いや、あのもうスペースが・・・ないのでは」
M「ええい一言でもいいから語れ！さあ！さあ！」
F「はい、皆さん楽しい夏休みを過ごしてね～」

←ブログもあるよ！http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/

Volume.27
YA通信

ホンダラケ

H30.8.1

夏ですよ！やっぱり今年もホラーです♪
ほどよい恐怖体験をアナタに捧げます。

ホラー祭へようこそ

怪談（ふるい）　耳袋より

京極夏彦：著　メディアファクトリー　2007年刊　Fキヨ

むかーしむかしから怪談はあります。昔も今も「？まさか」という体験をしてしまう人はいるんですよね。これは、昔々の怪談を集めた本「耳袋」の中から選んだものを、作家の京極夏彦氏が、現代の人にもわかりやすいように書き直してくれたもの。怖い話をわざわざわかりやすくだなんて、ホラー嫌いな人には涙が出そうですが、読んでみると怖いというより「？？？」という話が多いです。特におススメは、トイレに入って消えた人が20年後にトイレから出てくる話。ええ、笑い話ではありません。怪談です。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のＹＡ（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。
２か月に１度、年６回発行予定です。
ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。ＹＡコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

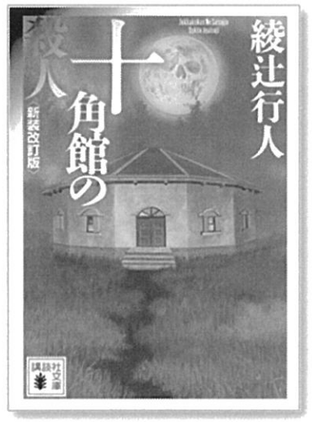
青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

今月のテーマは「ホラー・ミステリー」。

十角館の殺人

綾辻行人：著　2007年刊　講談社　F/アヤ



半年前に殺人事件が起きた角島に大学ミステリ研究会の七人が訪れる。宿は角島に立つ奇妙な建物「十角館」。これは半年前の事件で亡くなった建築家によって建てられた建物だった。そんな十角館で恐るべき連続殺人の幕が上がろうとしていた。そのことを知らない七人は、角島を探索する。

「十角館」で起こる連続殺人で生き残るのは誰か。この事件の犯人は一体誰なのか。気になる方はぜひ読んでみてください。

P.N. みなあい

リサイクル予備軍 ～なぜ君は借りてもらえないのか～

涙のタトゥー

ギャレット・フレイマン＝ウェア：著　ないとう ふみこ：訳　ポプラ社　2007年刊

933/フレ

シンプルな背表紙。表紙を向けると、男の子が泣いている？いえ、タイトルから察するに涙形のタトゥーのようです。でもどうしてタトゥーを入れているのでしょう。一見しただけではストーリーを想像することが難しいのが借りられない理由でしょうか。主人公は、15歳の少女ソフィー。最愛の弟を病気で失い、周囲との関係も上手くいかず、心を閉ざしてしまっています。そんな時、頬に涙形のタトゥーを入れた不思議な少年、フランシスと出会って・・・。タトゥーの秘密を知るにつれ、ソフィーは次第に弟の死を受け入れ、“今”を見つめることができるようになっていきます。学校生活や家族との関係など、思春期ならではの心情が細やかに描写されている、美しい青春小説です。

おすすめの課題図書コーナー

A「夏休みですね！夏休みの宿題といえば読書感想文。最後まで残って苦しんだ思い出しかありません・・・。」
F「私はわりと得意でしたよ。課題図書でなくても好きな本を読めばいいし」
M「そうそう。でもこの時期になると課題図書の予約がわんさと入るけどね」
A「一冊読んでみたのでご紹介しますね。『月はぼくらの宇宙港』佐伯和人著という本です。去年の中学生向けの課題図書で、月探査でわかった最新の月科学を紹介しています。月の起源やこれから人類がどう月と関わっていけばいいかなど、夢がふくらむ１冊になっています」
M「ふーーーーーん・・・・」
A「月はいずれ人類が太陽系へフロンティアを広げるための宇宙港になるかもしれないと思うとワクワクしますね」
M「ごめん。文系の私には今の話は頭に入ってこない」
A「難しい数式などは出てきませんよ！大丈夫です」
F「家で簡単にできそうな実験コーナーもあっていいですね。自由研究にも良いかも」
A「宇宙好きの少年少女はぜひ読んでみてください！」

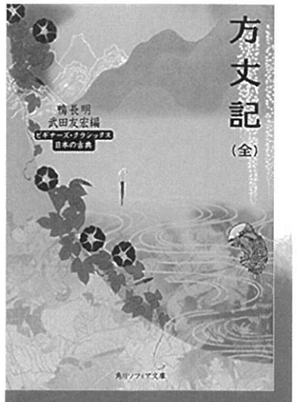
538. 9/16
新日本出版社
2016年刊

YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー

『方丈記』鴨長明

角川ソフィア文庫　武田友宏編　2007年刊

行く河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。



914. 4/カモ

とにかく「悟ってる」、そんな文学。いい家に生まれ教養はあるけれど出世を逃し、人生の挫折を味わって世捨て人として山籠もりをした男性が書いたものです。

この頃、飢饉や地震、火災などの大災害がたえずあったようで、その様子も方丈記のなかで詳細に語られています。現代の私たちにも他人事とは思えないような語りは、まるで被災地の実況をニュースで聞いているかのよう。そのため方丈記は、文学的な価値とは別に、当時の様子を知る記録としての価値も高く評価されている作品でもあります。

世の中は常に移り変わっていて、変わらないものなんて何もないのさ。全編に流れるそのメッセージは、現代に生きる私たちにも響くような気がします。